
不親切の親切

ぶによ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
不親切の親切

【Nコード】
N5957Z

【作者名】
ぶによ

【あらすじ】
今日もひとりきりの夜。ツマミはこれにしようか。

ピーッ、ピーッ。アラームが鳴った。

「お、出来たか」

” 解凍に失敗してしまいました。”

いそいそとキッチンに向かうと、これが専門のくせに仕事をミスったと告げやがった。

「おいおい、何で失敗するんだよ。そりゃ今日のは安いXXだけだよ」

レンジの扉を手前に引くと、どうすればこうなるのか、皿の上でXXが肉汁を溢れ出させて無残な姿を晒している。

「ちえ、酒のツマミにせっかく買つて来たのによ、まったく……」

どうにかして食えないかと頭を巡らせながら皿と向かい合った末、そう言えば” お任せモード ”とやらがあつたのを思い出し、再びレンジに戻してスイッチを押した。

お任せなのでどうなるのか分からないが、時間は残り五分と表示されている。

取り敢えず残っていた柿ピーを戸棚から取り出して、缶ビールのプルトップに指を掛けながら居間の炬燵に潜り込んだ。

ピーッ、ピーッ。再びアラームが鳴る。

「どうなったかな？」

先程から何やらジュージュー音がして、焼けるような匂いが漂ってくる不思議を思いながら待っていたのだ。

扉を開けると、XXが炙られたいい匂いを放ってきた。

「なんと……、オーブンレンジだったのかよ、お前……」

さて、この商品は時々ワザと失敗するように作られている。

しかも高価な材料では失敗しないよう、高度な認識技術が使われているのだ。

実は取説にさえ書かれていない秘密の機能も色々と詰め込まれている。

失敗すれば愚痴が出る。思わず悪態をついてしまうだろうし、声を出す事もあるだろう。

感情が動く。何とかしようと頭も使う。

これは単身者の為に作られた代物だ。

声を出す事なく一日を過ごしてしまうような人の為に開発された白物なのだ。

ちよつとした不親切が使用者を動かすように……。

そんな思いを込めて、隠れた親切心が詰め込まれている。

（後書き）

（ぶによショート第二十六話と同じ物です。）
すいません。いいXXを思い付きませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5957z/>

不親切の親切

2011年12月19日22時51分発行